

今日からこの文章を 1日3回読みましょう。 朝起きてから、ランチを食べてから、夜寝る前。 3回のうち2回は黙読、1回は音読しましょう。 この新しい習慣が、私たちの思考の一部となって 「幸せな女性起業家」に導きます。

～．～．～．～．～．

最終章は祈りです。

だれもが途方もない災難にあったとき、神の名を呼びます。助けを求めて叫ぶ本能は偉大な自然の神秘です。このような叫びは祈りの原型なのです。その祈りとは物質的なものを求めている祈りではなく、導きを求めている祈りです。

金銭・愛・健康・取るに足らない勝利、名声、成功、そして幸せを与えてくれるように祈るのではなく、「これらのものを手に入れる方法を教えてください」という導きを求めている祈りには、必ず答えが返ってきます。

その答えとは、あるときは示され、あるときは示されないかもしれません。しかし、その両方が答えなのです。

私は導きを求めて祈ります。

「私の求めるものは、お金やものではありません。また自分の能力に応じたチャンスでもありません。そのかわり、そのチャンスを生かすことができる能力が欲しいのです。どうかこの能力を得られるように私をお導き下さい。」

「何回も何回も試すという習慣が身につくように、私をお導き下さい。またチャンスを察する感の良さをお授け下さい。また力を集中するための忍耐力もお与え下さい。」

「悪い習慣を流し去り、良い習慣の中に私を浸してください。また他人の弱点に対する道場心を私にお与えください。すべての苦しみは、いずれ過ぎゆくものだということを私に知らしめて下さい。今日の天の恵みを数えるのにあなたの手をお貸してください。」

「私が目標に到達できるよう、十分な日数をお与え下さい。しかしながら、私がきょうのこの日をあたかも人生最後のひであるように過ごすことができるよう、私に力を貸して下さい。」

「しかしこれらはすべて、あなたのご意志次第です。私はつるにつかまっている孤独な一粒のぶどうにしかすぎません。

しかしあなたは、私を他のものとは完全に違うものとして、私をお造りになりました。だとすれば、私には特別の私だけの場所があるに違いありません。そこにお導き下さい、道をお示し下さい。

私はあなたによってこの世のぶどう畑に種として蒔かれました。どうか私を広大なぶどう畑に育てて下さい・

「この微力な私をお助け下さい。お導き下さい」

---

<最後のまとめ>

※この章は「人生を支配する何らかの力」あるいは「避けがたい力」の存在をあなたが信じている前提で読んで下さい。（強制ではありません）最近、あなたがそのような存在との対話をほとんど行わなくなっていたとしても、それでもあなたが「目に見えない存在」を信じていることを私は望んでいます。

これからも、あなたは援助を求めたり、何かを手に入れるために「祈る」のではなく、「導き」だけを求めて祈りを捧げて下さい。

私の考えでは、個人的な利益や自分の人生に対する困難を解消するために祈ったとしても、その祈りは聞き届けられないのです。

この章は、あなたが今まで長い間「成功の記録」をつづり続けた努力の締めくくりです。たとえどんな運命が待ち受けていようとも、あなたはたゆまず前進するための力とインスピレーションを得るはずです。

「もし成功しようとする決意がかたければ、失敗で挫折してしまうことは決してない」という言葉を忘れないで下さい。

それでは、すばらしい人生を過ごして下さい。